

(様式1)

令和4年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立錦糸小学校
校長名	高山 幸

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">算数において、3つの学年が、目標値以上か同等程度である。領域別に見ると、学年ごとの強みが見られる。国語において、「文章を書く」設問では、3学年が目標値以上か同等程度である。どの教科でも「書く」学習を取り入れ、継続指導してきた成果と考える。	<ul style="list-style-type: none">全学年の算数において、習得目標を具体的に定め、確実な基礎学力の定着を図る。3年生以上の習熟度別指導では、各学年の苦手とする領域の学習も重点的に行う。「書く」活動を通して、漢字の習得とともに、目的や場面に応じた表現も表現の方法を身に付けることができるようにもしていく。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">「好きな教科がある」、「授業中グループで話し合う授業が楽しい」、「自分の思いや考えを発信できている」と感じている児童が80%程度いる。探究的な活動を重視した授業に取り組んできた成果だと考える。	<ul style="list-style-type: none">成功体験を自己肯定感につなげることができていない児童には、教師が児童の成長を価値付けることで、児童の自己肯定感を高めることにつなげていく。学習習慣が身に付いていない児童には、学習規律の確立とともに、家庭学習を中心に日々の学習状況の把握を行いながら、個別に指導する。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">体験的な活動や探求的・問題解決的な学習に対して、意欲的に取り組んでいる。タブレット型端末(学習アプリ)を活用した家庭学習に意欲的に取り組む児童が多い。ドリルなどの反復学習には、集中して取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none">自分の意見に自信がもてず、表現することに抵抗を示す児童には、発表方法を工夫し、児童に自信を付けていく必要がある。家庭学習に取り組むことができていない児童には、保護者と連携を図りながら、個別の指導を行う必要がある。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 探究的、課題解決的な学習について全教科での展開

令和2・3年度に生活科・総合の学習の時間の研究協力校として実践を重ねてきた。研究の成果を他の教科にも反映させ、教師が一方的に教えたり、学習活動を与えたりするのではなく、児童の気付きや疑問、体験的な活動を大切に、それを基にした探究的、課題解決的な学習活動を児童とともに作り上げていく。更に、学習活動を進める際に、児童が他者と協働して、直面する課題を解決していけるように、授業の改善に努める。

(2) 理科において、児童の思考の流れを意識した授業改善

教師主導で教科書の内容を教え込むのではなく、次のような学習の流れを大切にする。

- ① 単元の導入時に、学習につながる興味や意欲を高める工夫
- ② 児童の気付き、疑問から学習課題を設定
- ③ 学習課題に対して根拠をもっての結果予想
- ④ 児童の考えた予想の検証方法の検討
- ⑤ 実験や観察等を通しての検証
- ⑥ 検証結果から課題について分かることの考察

これら、児童の予想・仮説を基にした実験・観察を通して、理科の思考力を高める。また、単元の終わりに日常生活にフィードバックしたり、タブレットドリルやふりかえりシートを活用したりすることで、既習内容（主に知識・技能）の定着を図る。

(3) 全教科・領域において、自分の考えを書く活動を取り入れた授業づくり

学習問題・学習課題を自力解決する場面や検証結果から考察する場面、振り返りの場面等で、自分の考えや分かったことなどを書く活動を適宜設定し、文字で表現する力を伸ばしていく。また、書いたことを発表につなげることで、児童が自分の考えに自信をもてるようにしていく。

国語においては、「書く」活動を通して、学年に応じた漢字を習得できるよう指導を行う。更に、意見文や報告文等、その目的に合わせた文章を書く時間を設け、様々な場面に応じた表現の方法を身に付けることができるようにもしていく。

(4) 学力向上部における組織の活性化と充実した取組、各層の児童に応じた取組の強化

- ① 令和5年1～3月に、当該学年の振り返りを全学年実施する。(タブレット、プリント等)
- ② 学習状況調査結果の、S-P表に基づいた前学年の復習を行う。
- ③ 算数プリント、ふりかえりシート等を活用し、各学年終了までに身に付けさせたい基礎学力を共通認識し取り組む。45分間の授業時間を効率よく活用する。
1 学年：10の合成、ひらがな、カタカナ、繰り上がり、繰り下がり
2 学年：かけ算九九 3 学年：わり算、ローマ字 4～6 学年：四則計算
※3・4年の児童対象に、タブレット型端末を用いた放課後補習を後期に15回、実施する

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・ E層の割合を0%、D層を30%以内とし、C層への割合を増やす。
- ・ 理科の全観点の正答率を全国平均、もしくは目標値と同等程度にする。
- ・ 国語の記述式の問題に対し、無回答の児童を15%以内にする。